

「今の出版界は効率が悪先。だからこそ、スロ―で行きたい」。リヤカーが付いた特注の電動機付き自転車にまたがり七日から十二日まで、札幌市内で自らが出版した本を行商している。

生後まもなく高熱で脳性まひになった。今も首や手足が自由に動かせない。高校時代に文学と出会い、書店勤務などを経て二十五歳で「燦燦出版社」（東京）を設立。キリスト教や障害者福祉などに関する本約三百冊を世に送り出した。

白井 隆之 さん



取次店にも卸すが、徒歩での行商も続けてきた。一年のうち約四カ月は会社を離れる。「いいかげん、体がしんどくなつた」ため、自転車を使つての行商に着目。軽量リヤカーを製造する長崎

の自転車メーカーに頼んだ。愛車の名前は「燦燦号」。いつまでも太陽のように輝いていたいという願いを込めた。長い時間ペダルをこぐことができるように筋力トレーニ

ングもして準備した。自転車での行商は七月に愛車を引き取りに行ったが、本格的な物で行ったが、本格的なものは今回が初。「涼しくて、道が広く、苦手な坂が少ない」とすっかり札幌が気に入った。

札幌では大手書店のほか、市内の中学校や高校などへ。「人との出会いが自分の原動力」と日焼けした顔をほころばす。横須賀市出身。二男一女は独立し妻と東京都立川市内に住む。六十一歳。

(能正明)